



入間野中学校で「ゴールボール」を体験

6月22日(木)に、入間野中学校の1年生154名が、北京パラリンピック日本代表の高田朋枝氏を講師に、視覚障害者の種目「ゴールボール」を体験しました。



ゴールボールは、目隠しのアイシェードを付けて、鈴が入ったボールを相手のゴールに入れる対戦型の競技です。生徒たちは、音だけを頼りにする状況に戸惑いながらも、徐々に慣れて、ボールに向かっていけるようになりまし



ました。また、「強い意志があれば、困難があっても夢に近づくことができる」との講師の話に、何事にもチャレンジすることの大切さを学びました。

.....

入間川小学校で「ラグビー」に挑戦

6月10日(土)に、入間川小学校で、1～6年生の児童19名が、市内に本拠を構えるラグビーチーム「セコムラガッツ」の協力による「ラグビー体験教室」に参加しました。



ラグビーとは、タグと呼ばれるひもを腰の左右につけ、タックルの代わりにタグを奪われないようにしながらパスをつなぎ、相手の陣地にボールを持ち込むゲームです。接触プレーがなく、初心者でも安全にラグビーを楽しむことができます。

児童たちはラグビーの選手から指導を受けた後、試合形式でラグビーに挑戦。素早いパス回しを武器に、現役選手と一進一退の攻防を繰り広げ、見事ラグビーに勝利しました。

市では、2019年のラグビー国際大会と、2020年のオリンピックのラグビー競技の事前キャンプ地に立候補しています。両大会に向けて盛り上げていくため、今後も市内の小学校で開催していきます。

お父さんに癒しの緑をプレゼント!

6月18日(日)／父の日に贈る苔玉作り(都市緑化植物園)



父の日に、会社のデスクなどにも飾れ、手入れが簡単な苔玉作り(こけだま)に挑戦。感謝の気持ちと一緒に泥団子に植物を植え、苔を巻き付けたら心む贈り物の完成です。

集中力が勝負の分かれ

6月19日(月)／マグダーツ大会(入曽公民館)

針の代わりにマグネットが付いた矢を使った安全なダーツ。今年で5回めとなった大会に48名が出場し、真剣勝負を行った後は、親交も深まりました。



28年度さやま市民大学地域ジャーナル講座 修了生がお届けします さやま・レポート 狭山自慢③



「昔、弥吉という牛飼いが入間川のほとりで気を失った女を見つけ、家に連れて帰りました。女の名は『奈々児』と言い、機織りが上手でした。その美しい織物は『奈々児織り』と呼ばれ、やがて広瀬の里の名物になりました」

児童文学作家の故・さねとうあきら作「さやま民話風土記」の中の「狭山七夕縁起」に出てくるこの絹織物は、かつて宮内庁のご用達になるほどでした。

この幻の絹織物「広瀬斜子織」を復活させようと、市民団体「狭山遊糸会」が、博物館に所蔵されていた昔の機織り機を修理し、絹糸や織り方などの研究を進めています。また、広瀬公民館では、機織りの体験などができる「広瀬斜子サロン」を開催しています。お気軽にお立ち寄りください。

◆広瀬斜子サロン

日時 奇数月は第3金曜日、偶数月は第2日曜日の11時～15時
場所・問合せ 広瀬公民館(広瀬東3-34-1)へ ☎2953-6500

紫、白、黄色の花々に誘われて

6月4日(日)～18日(日)／花菖蒲まつり(智光山公園)

「雑木林に囲まれた菖蒲田に咲く花を撮りたくて、毎年来ているよ」と話すのは、早朝に出会ったカメラマン。シルクのように艶やかな2,600株の花びらは、今年も来園者の心を魅了してくれました。

9・10日(土)はライトアップも行われました



「急所を狙え!」もしものときに身を守る

6月20日(火)／女性のための護身術講座(中央公民館)

男女共同参画センターでは、自分の身を守るための知識や技術を、警察官から学ぶ講習会を開催。ちょっとした身のこなし方で、相手の体勢を崩せることを知った参加者は、コツをつかもうと繰り返し練習しました。



身近なものでも、いざというときには役立ちます

行事食で味わう日本の伝統

6月20日(火)／異食文化料理教室(狭山台公民館)

「季節の伝統行事でいただく料理」をテーマに、世界の食文化に触れる料理教室。「七夕の節句食」である「そうめん」を中心にしたメニューに挑戦しました。難しく見える料理も、先生がアレンジしたレシピなら簡単に。七夕の日に食して無病息災を願います。



メニューは、七夕の「わん」・牛肉のタタキ、なすの揚げだし↑

あなたが写っていませんか? 広報さやまに掲載した写真は、広報課で撮影したものでしたら無料で差し上げます。広報課までご連絡ください。

あじさい 紫陽花が結ぶ国際交流の輪

6月18日(日)／あじさい祭り並びに国際交流の集い(中原公園)

地域の手で育った1,200株の紫陽花が彩る会場で、地元自治会が中心となって行われる梅雨の風物詩。東京五輪・パラリンピックに向けて、日本文化の魅力を発信する「beyond2020プログラム」として国から認証され、狭山市の魅力を広めていきます。



ステージでは、住民による音楽演奏なども行われました

合言葉は「育てよう 地域の花」

6月17日(土)／地域のつながりと支え合いを考える集い(市民会館)

「民生委員とわたしたちの暮らし」をテーマにした集いに705名が参加。高校生によるオリジナル劇の鑑賞や一日民生委員の体験発表の後の全員での意見交換では「民生委員だけに任せるのではなく、支え合っていける社会を作ろう」との、声が聞かれました。



「なぜ民生委員が必要なのか」を問いかけた舞台劇